



無私の情熱～モヨロ貝塚を世界へ発信～ 米村 喜男衛

【指導事例 1】

1 主 題 「社会の一員として」〔社会参画〕

2 ねらい

米村喜男衛の生き方を通して、進んで社会と関わっていくことの大切さに気づき、社会の一員としての役割と責任を果たしていこうとする態度を育てる。

3 教材について（教材の生かし方や人物像）

本教材は、生涯をかけてオホーツク文化の研究に尽力した米村喜男衛の功績に触れることを通して、主体的に社会に参画し、社会の一員としての役割と責任を果たすことにより、よりよい社会の実現に努めようとする態度を育むことをねらいとしています。

前半では、米村喜男衛が理容師として生計を立てる傍ら、終生、モヨロ貝塚やアイヌ文化、オホーツク文化の研究に心血を注いできた様子について触れています。

後半では、網走の地における考古学研究が、決して順風満帆ではなく、喜男衛の研究にかける情熱や地道に社会貢献に取り組む姿を通して、いつしか地元の人たちの心を動かしていく様子について触れています。

指導に当たっては、米村喜男衛が少年時代に祖母から受けた「…お人の役に立つことが何より大事なことです。」という言葉に胸に秘め、人々や地域のために尽力した米村喜男衛の生き方について、多面的・多角的に話し合い、社会の一員として関わっていくとはどういうことかについて深く考えさせることが重要です。

4 展開例—①「米村喜男衛が人のために、地域の発展のために尽力する姿を通して、社会の一員としての役割や責任について考える展開」

	●学習活動 ○主な発問 ◎中心的な発問 ・予想される子どもの反応	・指導上の留意点（■評価）
導入	<ul style="list-style-type: none"> ● 学校生活における役割について振り返る。 ○ あなたは委員会や学級役員など、どういう気持ちで自分の役割に取り組んでいますか。 ・学校や学級の人たちのために役立ちたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校や学級における自分の仕事の役割と関わり方について振り返り、ねらいとする道徳的価値への方向付けをする。
展開	<ul style="list-style-type: none"> ● 教材「無私の情熱～モヨロ貝塚を世界へ発信～」を読み、話し合う。 ○ なぜ喜男衛は、研究と本職（理容師）以外にも、様々な事業に取り組んだのでしょうか。 ・町の一人として、できることに取り組みたい。 ・町の人たちの役に立ちたい。 ○ 喜男衛のこのような行動は、町の人たちの心をどのように変えたのでしょうか。 ・町のことを一生懸命考えてくれている。 ・喜男衛の行動を、支えたい、助けたい。 ◎ 喜男衛は発掘調査等に積極的に取り組む人々をどのような思いで見ているのだろうか。 ・自分の取組は、決して間違いではなかった。 ・働いている町の人たちのために、更に自分ができていることをやっていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・喜男衛の祖母の言葉を想起し、社会の一員として貢献しようとする気持ちについて考え、人間理解を深めさせる。 ・社会の一員として積極的に社会に関わり、自己の役割と責任を果たすことよさを多面的・多角的に話し合い、価値理解・他者理解を深めさせる。
	<ul style="list-style-type: none"> ● 人間としての生き方について考える。 ○ 仕事など、自己の役割を果たすために必要なことは何だろうか。 ・「みんなのために働く」という意識をもつこと。 ・みんなと協力し合い、助け合うこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会参画について、自分の人間としての生き方を振り返り、自己理解を深めさせる。 ■ 自己の役割を果たすために、社会参画の意識や公共の精神をもつことの大切さについて、自分との関わりで、考えを深めている。
終末	<ul style="list-style-type: none"> ● 「社会との関わり」（私たちの道徳 中学校P175）を読み、本時の学習の振り返りをワークシートに記入する。 ※学習を通して、自分の考えが広がったり深まったりしたことをワークシートに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習を振り返りながら、今後、日常生活において、自分の仕事や役割について、主体的に取り組んでいこうとする態度が育まれるようにする。

【指導事例 2】

1 主 題 「働くことの意義」〔勤労〕

2 ねらい

米村喜男衛の生き方を通して、働くことの厳しさや素晴らしさを知り、働くことの意義や自分自身の将来の生き方について見つめていこうとする心情を育む。

3 展開例—②「考古学研究と理容師という2つの仕事に全力で取り組む米村喜男衛の生き方について考える活動を通して、勤労の尊さや意義について考える展開」

4 主な学習活動

(1) 何のために働くのでしょうか。

- ・収入を得るため。自分を含め、家族が不自由なく生活していくため。
- ・自分の生きがいを見つけるため。
- ・人の役に立ち、よりよい社会を築くため。

(2) 喜男衛はどうして考古学研究と理容師という仕事を両立させたのでしょうか。

- ・考古学者という仕事は、町の文化的な発展のため、理容師という仕事は、人に直接関わるため。
- ・どんな仕事も、最後までやり遂げるという強い信念をもっていたため。
- ・どんな仕事も人の役に立てる、立派な職業であることを強く感じていたから。

(3) (喜男衛の生き方を学んだことを踏まえ) 働くために必要なことは何でしょうか。

- ・人のために役立ち、社会に貢献していこうとする気持ち。
- ・困難なことがあっても、最後まで責任をもってやり遂げる強い気持ち。
- ・生きがいのある人生を実現しようとする意欲。

活用場面例（道徳科以外での活用事例）

■ 社会科

歴史的分野のアイヌの人たちの歴史・文化の学習において、本教材を活用し、米村喜男衛によるモヨロ貝塚の発見により、アイヌ文化以前に樺太から根室半島・千島列島に及ぶ地域にオホーツク文化が広がっていたことや、後にオホーツク文化はアイヌ文化へと発展したことについて触れることを通して、北海道の歴史や文化について、理解を深めることができるようにする。

■ 総合的な学習の時間

地域の歴史や文化、人々の暮らし等について調べる学習活動において、本教材を活用し、北の大陸から網走の地に移り住んだ人々が生活を営んだむらの跡であるモヨロ貝塚やモヨロ人の生活の様子に触れることを通して、生徒の学習意欲が高まるようにする。

■ 特別活動（学級活動）

学級活動の社会参画意識の醸成や勤労観・職業観の形成に関する学習において、本教材を活用し、米村喜男衛の仕事に対する情熱に触れることにより、勤労の尊さや働くことの喜びを感じ取り、働くことを通して生きがいや社会とのつながりを実感できることについて、理解を深めることができるようにする。

■ 家庭や地域との連携

学級通信等において、本教材を活用した学習の様子を家庭に伝えるとともに、勤労の尊さや意義について話し合ってもらおうよう依頼し、生徒が将来の生き方について考えを深め、勤労を通じて社会貢献しようとする意欲を高めることができるようにする。